



2025年度大学入学共通テスト概況分析

河合塾

2025/02/07

このほど、大学入試センターから2025年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の実施結果が発表され、受験者数、科目別平均点などが判明した。新課程移行後初めての共通テストとなったが、出題形式や問題構成などは過去の傾向を踏襲しており、全体を通して難易度はやや易しかった。以下、今年の共通テストの概況を振り返る。

■志願者数は7年ぶりに増加

2025年度共通テストは1月18・19日の2日間にわたり、全国651会場で実施された。

今年度の志願者数は495,171人（前年比100.7%）と7年ぶりに増加した。受験者数は462,066人（同101.0%）とこちらも3年ぶりの増加となった<図表1>。これを受けて受験率も93.3%とやや上昇した。現役生志願者の増加が志願者数・受験者数の増加につながった。

今年の追試験の受験許可者数は、992人と2年連続で減少した。追・再試験は本試験の1週間後の1月25・26日に実施され、878人が受験した。

<図表2>は受験科目数別の受験者数の推移である。主に国公立大志望者が受験する8科目以上は、99.7%と前年並みだった。新教科「情報」の追加で多くの国立大が必要教科・科目を7科目から8科目に増やしたが、負担増の影響は小さかったといえる。また、私立大専願の志望者が中心となる3科目以下の受験者数は、前年比97.4%となった。減少幅こそ緩やかになったものの、3科目以下の受験者数は、共通テスト導入以降、減少傾向が続いている。

<図表1>センター試験・共通テスト 志願者数・受験者数推移

年度	志願者数	受験者数			受験率
		総数	本試験	追試験 再試験	
2016	563,768	536,828	536,659	169	95.2%
2017	575,967	547,892	547,391	501	95.1%
2018	582,671	554,212	553,762	450	95.1%
2019	576,830	546,198	545,588	610	94.7%
2020	557,699	527,072	526,833	239	94.5%
2021	535,245	484,114	482,624	1,490	90.4%
2022	530,367	488,384	486,847	1,536	92.1%
2023	512,581	474,051	470,580	3,471	92.5%
2024	491,914	457,608	456,173	1,435	93.0%
2025	495,171	462,066	461,188	878	93.3%

<図表2>共通テスト 受験科目数別の受験者数

受験科目数	受験者数		前年比
	2024年度	2025年度	
8科目以上（7科目以上）	272,845	272,142	99.7%
4～7科目（4～6科目）	79,374	87,273	110.0%
3科目以下	105,389	102,651	97.4%
合計	457,608	462,066	101.0%

※大学入試センター資料より

※（ ）は2024年度の受験科目数

※理科の基礎を付した科目は2科目で1科目とする

■共通テストの出題一新教科・科目や特徴的な出題について

今年の共通テストは、新課程に対応して「数学」「地理歴史」「公民」で科目構成が見直され、新たに「情報」が追加された。新課程に移行したが、問題作成方針に変更はなく出題傾向は前年までと大きな変化はみられなかった。複数の文章・資料や図表などを読み込ませたうえで、授業や教科書で学んだ知識を関連づけて解答を導き出す力や、得られた情報を組み合わせて多角的・多面的に考察する力が求められている。

科目再編された地歴公民のうち「地理総合,地理探究」の「地理総合」分野は、受験生が初見であろう資料を用いた問題が少なく、教科書を中心とした勉強で対応できる問題だった。「歴史総合,日本史探究」の「歴史総合」分野は世界史の知識が必要な問題が出題され、日本史で学習してきた受験生には解きにくかった。また、近代化の分野や戦後史からの出題が多く、近現代については日本史・世界史をバランスよく学習することが必要であった。「公共,倫理」「公共,政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」の「公共」分野は現代の日本が抱えている課題から出題されており、男女共同参画社会を扱ったのは象徴的だった。注目を集めた「情報Ⅰ」は、試作問題通りの出題で全範囲から満遍なく出題された。問題文で与えられた多くの設定や条件をすみやかに扱うことが求められたが、教科書にある知識をもとに考察することで解ける問題がほとんどであった。

＜図表3-1＞ 共通テスト 主要科目平均点

教科・科目		平均点		
		2024	2025	差
英語	リーディング (R)	51.5	57.7	+6.2
	リスニング (L)	67.2	61.3	-5.9
数学	数学Ⅰ, 数学A	51.4	53.5	+2.1
	数学Ⅱ, 数学B, 数学C	57.7	51.6	-6.2
国語		116.5	126.7	+10.2
理科	物理基礎	28.7	24.8	-3.9
	化学基礎	27.3	27.0	-0.3
	生物基礎	31.6	31.4	-0.2
	地学基礎	35.6	34.5	-1.1
	物理	63.0	59.0	-4.0
	化学	54.8	45.3	-9.4
	生物	54.8	52.2	-2.6
	地学	56.6	41.6	-15.0
地歴・公民	地理総合, 地理探究	-	57.5	-
	歴史総合, 日本史探究	-	57.0	-
	歴史総合, 世界史探究	-	66.1	-
	公共, 倫理	-	59.7	-
情報Ⅰ	公共, 政治・経済	-	62.7	-
	情報Ⅰ	-	69.3	-

※大学入試センター資料より
※「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」は 2024 年度「数学Ⅱ, 数学B」と比較

「国語」では近代以降の文章に大問が追加された。国語としては初めてグラフの読み取りが問われ、現代の社会を生きる上で要求される読解力が試された形だ。大問の追加で試験時間は10分延長されるとともに既存の大問では選択肢の数を減らすなど、問題量のバランスをとった出題となった。「英語リーディング」は、大問数が6から8へ増加したが、総語数は全体で700語程度減少、設問数も少なくなり難易度の調整が図られた。「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」は出題範囲の変更があった。「平面上の曲線と複素数平面」の単位に関しては、「平面上の曲線(2次曲線)」は出題されず「複素数平面」のみが出題された。「統計的な推測」では、仮説検定が出題されたが、試作問題では出題されていない「片側検定」だった。

■科目別平均点の変化－国語で平均点アップ、化学はダウン

＜図表3-1＞は大学入試センターが公表した共通テストの主な科目の平均点の一覧である。「英語リーディング」「国語」でそれぞれ大きく平均点が上昇した。一方、「英語リスニング」「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」「化学」「地学」などで大きくダウンした。

＜図表3-2＞は河合塾の共通テストリサーチ参加者の「英語リーディング」「化学」の得点分布である。昨年と比較して平均点がアップした「英語リーディング」では、得点率8割以上の受験者が前年比247%と大きく増加した。分布の形も台形となり、例年と比較して差がつきやすい出題となった。

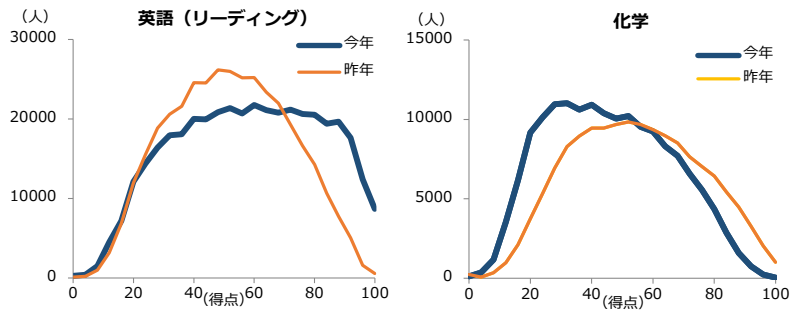
「化学」では10.5点のダウンとなった。得点分布をみると、ボリュームゾーンは30点前後になっており、平均点ダウン以上の難化と感じた受験生が多かったのではないかと推察される。今年の出題は「化学と人間生活」に結びつけた内容が多く、問題設定の読み取りに時間がかかったことも要因だろう。

地歴公民では、「歴史総合, 世界史探究」で66.1点とやや高めの平均点となったが、それ以外の科目では、平均点60点前後のバランスの良い出題だった。

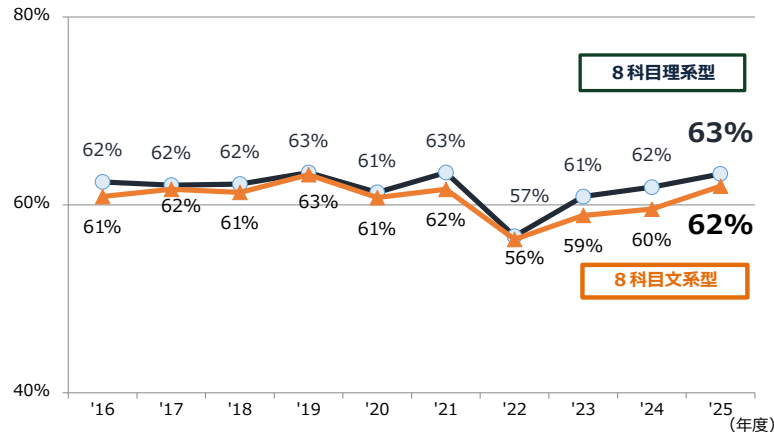
■総合型平均点は上昇

＜図表4＞は河合塾が推定したセンター試験・共通テストの総合型平均点の10年間の推移である(2025年度より河合塾・駿台・ベネッセの推定値)。今年の平均得点率は8科目文系型(1000点満点)が、前年より2.4ポイントアップして62%、8科目理系型(1000点満点)が1.4ポイントアップして63%と前年から上昇した。2022年度入試以降、得点率は緩やかに上昇傾向にある。

＜図表3-2＞ 共通テストリサーチ 受験者の得点分布



＜図表4＞ センター試験・共通テスト 総合型平均点の変化



※2025 年度平均点 (得点率) は、河合塾・駿台・ベネッセの推定値
8科目文系型: 英・数(2)・国・理(1)・地公(2)・情(1000 点満点)
8科目理系型: 英・数(2)・国・理(2)・地(1)・情(1000 点満点)
※2024 年度までは河合塾推定の7科目型の平均点 (得点率) で、得点調整を実施した年は調整後の数値

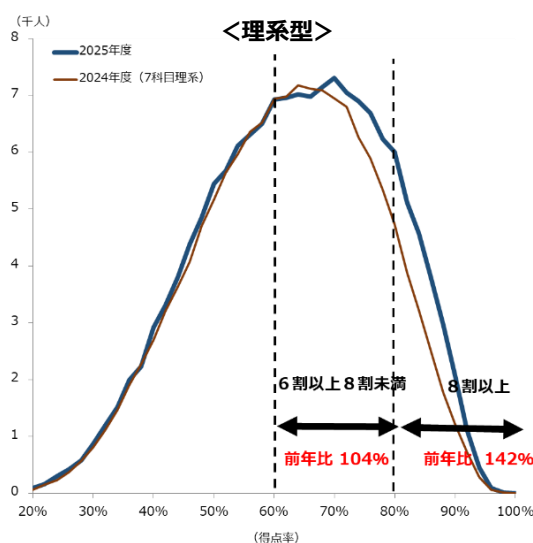
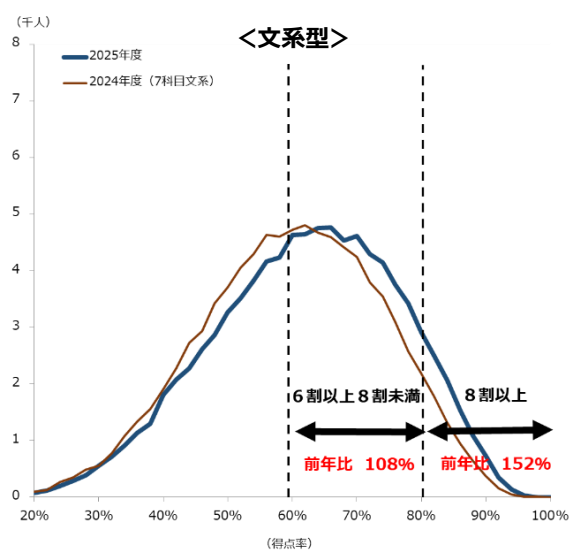
■得点分布—平均点アップにともない8科目型の成績上位者が大幅に増加

＜図表5＞は、共通テストリサーチ参加者の得点分布である。多くの国公立大で必要となる8科目の受験者の得点分布は、国語の平均点アップなどもあり、文系型、理系型ともに右にシフトし得点率8割以上の高得点層が前年から大幅に増加した。6割以上8割未満の中間層も増加しており、全体的に得点しやすかった様子がうかがえる。これにともない多くの大学で予想ボーダーラインは上がった。

3教科型では、主に私立文系志望者が受験する「英・国・数または地公」の3教科型と、私立理系志望者が受験する「英・数・理」の3教科型の得点分布を作成した。「英・国・数または地公」型では、国語の平均点アップの影響などにより、得点率8割以上の高得点者は前年比164%と大きく増加した。「英・数・理」型でも、得点率8割以上の高得点者は前年比137%と増加した。

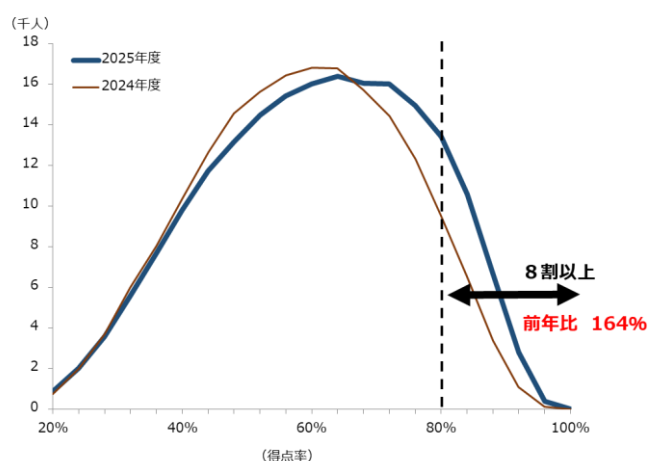
＜図表5＞ 共通テストリサーチ 受験者の得点分布

8科目 受験者の得点分布



3教科 受験者の得点分布

＜英・国・数 or 地公型＞



＜英・数・理型＞

